

1 幼稚園教育目標

主体性を育む環境づくりと夢中に取り組む園児の育成

2 幼稚園経営の重点目標

- 園児一人一人の生活経験や発達に応じた幼児教育の質の向上に努める。
- 多様な人との関わりの中で、自尊感情・社会性・規範意識の育成に努める。
- 園児の安心・安全な環境の整備とチームで取り組む幼稚園づくりに努める。

※4段階評価

重 点 項 目 I		幼児の意欲的な活動を促し幼児期にふさわしい環境づくりに努める。
評 価 項 目		評価
1	全身を使って活動することを通して、進んで体を動かすように取り組んでいる。(健康な心と体)	3. 0

- ・運動に限らず砂場遊び等でも身体を動かすことにつながられている。
- ・戸外でも室内でも好きな遊びを見つけてのびのびと遊べている。
- ・わくわく運動会の前は多く見られた活動もあまり継続していないように思う。
- ・学年や個人によって身体を動かす活動の好き嫌いがあり、嫌いな子でも自分から身体を動かす時の表情はとてもよい。身体を動かす機会を設定し、根気強く関わるようにすることが大切である。
- ・戸外での遊びの環境をもっと充実させていきたい。

<改善方策>

◎「チャレンジタイム」の継続…午後外遊びの時間に全学年で運動遊びに取り組む。

評 価 項 目		評価
②	人の言葉や話などをよく聴き、言葉を通して先生や友達と心を通わせるように取り組んでいる。(言葉による伝え合い)	3. 3

- ・対話を大切にし、自分の思いを出させるように支援している。
- ・サークルタイムで思いを伝え合いながら、考える姿が見られるようになった。
- ・サークルタイムを重ねることで、自分の思いを話す力、相手の話を聞く力がついていると感じる。
- ・他のことに集中している時は何度言っても聞こえていないので、きちんと目を見て話すように努めたい。
- ・サークルタイムの効果をとても感じる。
- ・年少児や3歳児にとって言葉による伝え合いは難しい時もあるが、先生が間に入り子どもの考えを受け止め、共感しながら気持ちを通わせている。
- ・絵本の読み聞かせで、子どもからいろいろな話が出て意見交換ができる。
- ・サークルタイムはよい取り組みだとよく聞く。
- ・言葉を通して気持ちを伝え合うように取り組んでいる。
- ・伝えたことをしっかりやっている。

<改善方策>

◎「サークルタイム」の継続…1日の中で「聴く」「話す」「話し合う」時間を設定する。

評 価 項 目		評価
3	自己を発揮し、活動を楽しむ中で認められる体験を重ねることにより、自ら考えて行動し、やり遂げるように取り組んでいる。(自立心)	3. 3

- ・一人一人の良さを十分に認め、自己発揮につなげている。
- ・一人一人の良いところを伝え合うようにしている。
- ・子どもの行いに自信へつながる言葉かけをし、次のステップへ進んでいく姿が見られる。

＜改善方策＞

◎認められる体験を通して、自己発揮できるようになった姿を園だよりや連絡ノート、保護者面談等で家庭に伝えることを継続する。

重 点 項 目 II		いろいろな体験を通して、豊かな心を育てる。
評 価 項 目		評価
④	遊びや生活の中で感じたことや考えたことなどを音や動き・言葉などで表現したり、演じて遊んだりすることができるように取り組んでいる。(豊かな感性と表現)	3. 4

- ・一人一人の幼児が様々に表現する楽しさを大切にするとともに、多様な素材や用具にふれながらイメージやアイデアが生まれるよう環境を整えている。
- ・キャラクターや動物になりきって遊んでいる。
- ・人前で何かを発表することだけが表現ではないということは前提として、今年度クラスごとに発表会に取り組めるようになったことがありがたい。
- ・身振りや演じることはとても上手だが、言葉にすることは難しいので、少しずつ引き出せるよう考えて接するようにしたい。
- ・子どものやりたい気持ちにすぐ寄り添えるように取り組んでいて、「今」を大切にしていることがわかる。
- ・異年齢間でも刺激、影響しあいながら遊ぶ様子が見られる。
- ・劇などを見たり、他のクラスの活動を見て真似たり、好きな歌を歌ったり、ダンスを踊ったり、のびのび表現できている。
- ・旅行に行った経験をごっこ遊びに生かしていた。
- ・自分たちで「これやりたい！」が増えたように感じる。
- ・劇を観たり園外活動をしたりした後に、園児の遊びにその刺激が加わっている。
- ・いろいろ考えていろいろな遊びをしている。

＜改善方策＞

◎年間を通して、いろいろな表現ができるように計画する。(学年の状況に応じて)

評 価 項 目		評価
5	身近な環境に自ら関わり、発見を楽しんだり考えたりして、興味・関心を深めるように取り組んでいる。(思考力の芽生え)	3. 4

- ・1つのことをじっくりと取り組み新しい考えが生み出され遊びが広がっていくための時間の確保が必要である。

- ・自然物にふれたり、育てたりすることを大切にしている。
- ・園舎周辺の雑草をあえて残してもらったことで、例年よりも季節の移り変わりを感じることで、子どもの自然物との関わりも増えたと思う。
- ・少しずつ成果が出てきていると思う。

＜改善方策＞

◎年間を通して、身近な環境に自ら関わり、発見したり考えたりして、興味・関心が深められるような活動を計画する。（お散歩・園外保育などの設定）

評 価 項 目		評価
6	豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたりできるように取り組んでいる。（知識及び技能の基礎）	3. 1

- ・豊かな体験とは自ら主体的に活動できることだと思うので、遊びの中からたくさんの気づきがあったと思う。

＜改善方策＞

◎豊かな体験ができるように年間計画の中に位置づけていく。（日頃の活動を中心に）

重 点 項 目 Ⅲ		生活に必要な習慣や健康づくり、安心・安全の確保に努める。
評 価 項 目		評価
7	幼児の成長を見守り、基本的な生活習慣や社会的な言動（挨拶、約束の大切さ等）を育み、家庭と連携する中で身につけることができるように取り組んでいる。	3. 1

- ・社会的な言動を育てているが、生活習慣が身につくのに時間がかかる子もいる。
- ・あいさつはもちろん大切だが、「ありがとう」「ごめんね」など、ふわふわ言葉やちくちく言葉を意識できるようにしたい。
- ・PTAの方にもあいさつ運動など協力いただいている。

＜改善方策＞

◎家庭と連携して取り組むことを年間計画の中に位置づけていく。（あいさつ運動など）

◎基本的な生活習慣などは、その子の発達にあわせて個別に継続して支援していく。（巡回訪問で心理士と確認し、支援員と共有する。）

評 価 項 目		評価
⑧	家庭と連携して食べ物への興味や関心を高め、自ら進んで食べようとする気持ちが育つように、また感謝の気持ちがもてるように取り組んでいる。	3. 0

- ・野菜の栽培や行事のお楽しみ食など、みんなで同じ物を食べる活動を多く取り入れている。
- ・食育体験教室やデリバリー弁当・パンがあることで食への関心が高まった。
- ・すすくすくだよりや食育体験教室を通して食について保護者に啓発している。
- ・個人差があると思うが、できている。

- ・食に関する機会は多く、とてもよい。食べるだけでなく、植え育てることの経験も素敵。
- ・保護者参加の食育体験教室は家庭での話題につながりそうでよい。
- ・食育の際に園児より「作ってくれて、ありがとう」と言ってもらえている。

＜改善方策＞

◎家庭と連携して食育の取り組みを年間計画の中に位置づけていく。

(デリバリー弁当・パン、カレーライス作り、食育体験教室、焼き芋大会など)

評 価 項 目		評価
⑨	安全・安心な園生活に向けて、PTA及び地域の協力者と連携を図っている。また、毎月の防災防犯訓練及びKYT等研修により職員の意識向上に努めている。	3. 5

- ・安全安心について職員間で意識向上に努めている。
- ・毎月の訓練やKYT等研修で共通理解できている。
- ・KYT等研修で安全配慮事項や保育について全職員で話し合えるのはありがたい。
- ・防災防犯訓練について、子どもたちはとても身についている。
- ・KYT等研修では様々な場面での問題点を全職員で考え話し合えるので、他者の意見も聞けてとても良い。
- ・KYT等研修では、各クラスの様子も伝えていただき、ありがたい。
- ・定期的に防災や防犯の訓練に取り組めており、KYT等研修では皆で情報共有しながら意識を高めることができている。
- ・KYT等研修で各クラスの状況を聞けるので、どういうことに気をつけなければいけないかがわかり、安全安心につながっている。
- ・全職員対象のKYT等研修で情報共有できている。
- ・毎月みんなで安全点検をしている。

＜改善方策＞

◎月1回のKYT等研修を継続し、全職員で安全や児童理解について共有していく。

重 点 項 目 IV		職員の指導力向上と園内研究の充実を図る幼（保）・小・中の12年間の教育
評 価 項 目		評価
10	園児の主体性を育てる中で、よりよい生活や遊びができるように園内研究に取り組んでいる。(職員の研修と自己研鑽)	3. 3

- ・リモート研修をしたり、全職員で幼児理解や環境について学んだりしている。
- ・自主的な研修（オンライン）の場を増やしていただき、ありがたい。
- ・研修の成果を現場で活用しようとする前向きな姿勢が見られる。

＜改善方策＞

◎他園の実践から学び、よいことを取り入れて、公開保育を含め園内研究を充実させる。

評 価 項 目		評 価
11	幼保小中一貫教育に向けて、保小中との交流活動やふるさと教育・英語教育・ICT活用等の実践に努めている。	3. 1

- ・一貫教育実現に向けて理解を深めるようにしている。
- ・園児・児童・生徒の交流は進んでいる。教師同士の交流がもう少し進むと良い。
- ・園でもできることから活用、実践できている。
- ・幼と小、幼と中との交流でお互いの名前を覚え、次回の楽しみや絆が生まれている。
- ・英語以外の項目がまだうすいように思う。
- ・お散歩に行くのも、とてもよいふるさと教育になっている。
- ・年長児の、保育園児や小学生との交流、園児と中学生との交流があること、英語教育も定期的に行われており、しっかりと実践されている。
- ・今年からエイドリアン先生に来てもらうなど連携が少しずつとれている。
- ・ICTの活用が不十分に感じる。
- ・それぞれの交流活動と英語教育の実践はできている。
- ・英語教育は今後のためにも良い。

＜改善方策＞

- ◎英語教育・ふるさと教育・ICT活用等の実践を具体的に進めていく。
- ◎幼保小の架け橋プログラムの実践も進めていく。(実践事例やカリキュラムの検討)

評 価 項 目		評 価
12	行事等に関する計画・実行・評価・改善を生かして、職員が協力し合ってチームでよりよい幼稚園づくりに取り組んでいる。(PDCAサイクル)	3. 5

- ・職員で協力して進めている。
- ・反省を皆で回覧することで共通理解できている。
- ・子ども主体の行事づくりはまだまだ検討が必要だが、チームで同じ方向に向いて取り組めるようになってきたと感じる。
- ・行事ごとにPDCAサイクルを行い、次へつなげている。
- ・行事を”子どものための行事”として見直し、改善する努力をしている。もう少し保護者の理解を得るための取り組みが必要だと感じる。

＜改善方策＞

- ◎行事等の見直し精選を行い、年間計画に位置付け、「チームひなづる」で取り組む。

重 点 項 目 V		地域との協働や家庭との連携を図り、開かれた園づくりを推進する。
評 価 項 目		評価
1 3	町内にある施設利用や地域・家庭との協働で行事に取り組んでいる。また、各種ボランティア(ひなづる応援団)による保育支援も行っている。	3. 2

- ・応援団の方に牛乳パックの椅子を作っていただき、ありがたい。色々な行事で応援していただいている。

- ・せっかくよい取り組みがスタートしているので、もっと関わりがあっても良い。

＜改善方策＞

◎地域・家庭と連携して取り組むことを年間計画の中に位置づけていく。
(野菜の栽培・調理・カレー作り・夏祭り・なぶら市・餅つきなど)

評 価 項 目		評価
14	保護者面談、懇談会、公開日等の設定により、日頃の保育活動について理解が深められるように、開かれた園づくりの推進を図っている。	3. 6

- ・懇談会を工夫することにより、少しずつ理解が深められていると感じる。
- ・保育ミーティングを設けたことで、園の方針を話すことができた。来年度は運動会前が良い。
- ・懇談会よりざっくばらんに話し合えるよう保育ミーティングを開催できたのがよかった。
- ・開かれた園づくりに努めているが、保護者の方が忙しく、なかなか園に来ていただけないような気がする。
- ・子どもの日々の様子を知ってもらうことで安心感が得られる。
- ・保育ミーティングなど新しい試みもあり、幼稚園の保育について理解してもらえたら嬉しい。
- ・面談、懇談会、公開日が定期的に設定され、マチコミのタイムラインもこまめに更新され、園の様子がとてもわかりやすい。
- ・きちんと設定できている。
- ・マチコミのタイムラインを活用しながら開かれた園づくりができるように取り組んでいる。
- ・公開日等で保育活動について理解してもらっている。

＜改善方策＞

◎保護者面談、懇談会・保育ミーティング、自由参観週間等を例年通り設定し、マチコミやタイムライン等で日頃の保育の様子を伝えるようにする。

評 価 項 目		評価
15	必要に応じて預かり保育を前向きに実施している。また、子育て支援として施設を開放し、関係機関との連携及び協力が得られるように積極的に取り組んでいる。	3. 4

- ・預かり保育が楽しみという子が多い。人数が多い日の対応を考えていく必要がある。
- ・預かり保育、ひなひなクラスなどの活動が多くなり、色々な方々が園に来て、関わりがもてるようになった。
- ・ひなひなルームでは、低年齢のお子さんも親も参加して、保護者の方にとっても子育ての情報交換ができ、よい交流の場になっている。
- ・預かり保育は、親がリフレッシュできて良い。

＜改善方策＞

◎未就園児対象のひなひなルームを年間通して運営し、園児や保護者の交流の場を大切にしていく。また、預かり保育の拡充をできるだけ図り、保護者の要望に応えるようにする。